

株主メモ	
事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日、7月31日（中間配当を行う場合）
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL 0120-094-777（通話料無料）
公告掲載方法	電子公告によりホームページ（http://www.artner.co.jp/）に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『IRメール配信』サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた方に「投資家情報」の更新、決算、ニュースリリース、その他、重要事項の最新情報を、Eメールにて配信いたします（無料）。

下記URLまたはQRコードからサイトにアクセスしてご登録ください。

<http://www.artner.co.jp/ir/mail/>



↑QRコードからアクセス

当社のIR活動が表彰を受けました！	
第5回企業価値向上表彰 http://www.artner.co.jp/ir/prize/ 株式会社東京証券取引所が、企業価値向上表彰の一次選抜において選定された上場会社（50社）を、企業価値の向上を目指した経営を実践している会社として、選定の視点と併せて公表いたしました。 当社は上記の一次選抜において選定されました。	
日興アイ・アール株式会社 2016年度全上場企業ホームページ充実度ランキング  ●総合ランキング「最優秀サイト」 ●業種別ランキング「優秀サイト」（サービス業2位） ●新興市場ランキング「最優秀サイト」（1位）	ゴメス・コンサルティング株式会社 Gomez IR サイトランキング2016  ●総合ランキング「優秀企業」「銀賞」（51位） ●業種別ランキング（サービス業4位） ●新興市場ランキング（2位）

株式会社アルトナー

東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F
 大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-18 住友中之島ビル2F



ウェブサイト／投資家情報のご紹介

<http://www.artner.co.jp/>

アルトナー

検索



▲トップページ



▲投資家情報（トップページ▶投資家情報）

エンジニアインタビュー等
動画ならではの当社情報を配信中！



▲<https://www.youtube.com/> より

アルトナー公式

検索

55 IR

株式会社アルトナー

第55期 IRレポート【期末】

2016年2月1日～2017年1月31日

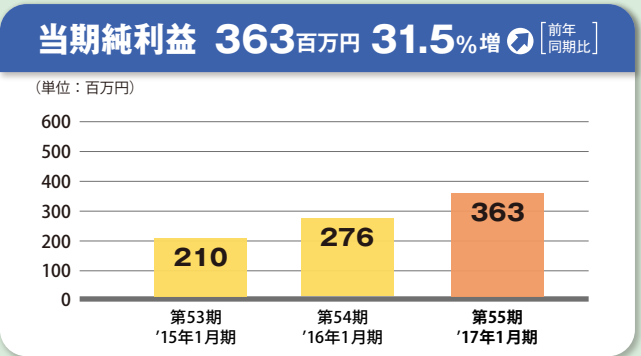
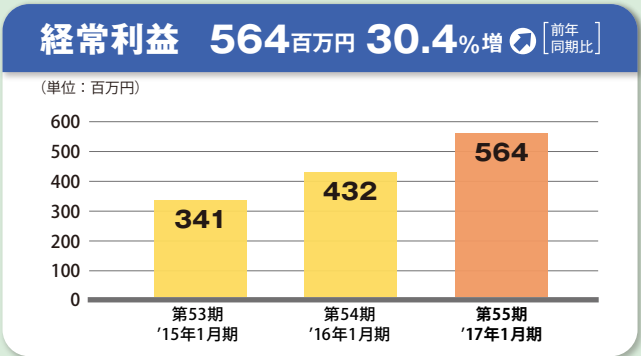
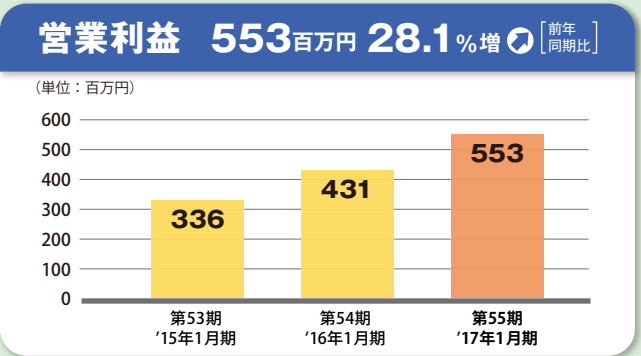
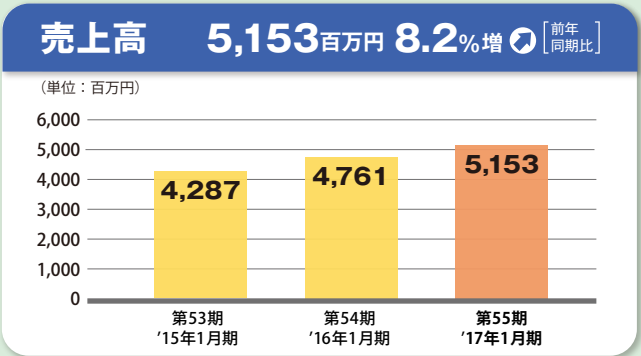
証券コード：2163

特集：アルトナー55年の歩み／
世代を超えた対談（取締役×技術者）



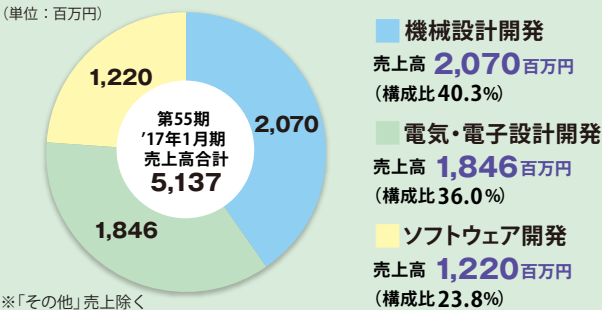
— Create the Future —

ARTNER



ROE(自己資本当期純利益率)他 経営指標に関する詳細は ▶[アルトナーサイトTOP](#) ▶[投資家情報](#) ▶[業績・財務情報](#) ▶[主な経営指標](#)を参照

第55期 分野別売上高 (※)



利益還元について

第55期 1株当たり配当金 **45円**

(中間配当) **20円** + (期末配当) **25円**

期末配当として25円(前回予想から5円増配)、中間配当の20円と合わせて年間合計で45円の配当を実施いたしました。配当性向は32.9%。

稼働人員の増加、技術者単価の上昇により、
3期連続で増収・増益を達成しました。

第55期(2017年1月期)の業績、第56期(2018年1月期)の業績予想、
中期経営計画(第54期～第56期)の進捗について、
ご説明させていただきます。

代表取締役社長 **関口 相三**

第55期(2017年1月期)の市場環境

自動運転技術関連プロジェクトの活況により、
輸送用機器分野が好調。

市場環境は、引き続き自動車を中心とした輸送用機器分野から自動安全ブレーキ、並びに自動運転についてのプロジェクトが活況を呈している状況であり、当社への技術者の要請も旺盛でした。また、自動車完成品メーカーのみならず、部品メーカーからの技術者の要請も好調だったのが第55期(2017年1月期)の目立った動向です。

当社においては、ソフトウェア領域の技術者の積極的な採用を行い顧客企業への提案を強化したことにより、情報通信分野において、自動車関連をはじめ、人工知能(AI)、IoT等を含めたインフラ整備に関連する技術者の要請が増加しました。

第55期(2017年1月期)の業績概要

技術者単価、稼働人員が
前年同期を上回り、引き続き増収・増益。

第55期(2017年1月期)は、技術者の質の向上により技術者単価が上昇し、2016年4月入社の新卒技術者の配属が前倒しで進捗し、稼働人員が増加しました。これらの要因が売上高、利益面に大きく寄与いたしました。

これらを踏まえて、売上高は5,153百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益は553百万円(前年同期比28.1%増)、経常利益は564百万円(前年同期比30.4%増)、当期純利益は363百万円(前年同期比31.5%増)となり、3期連続で増収・増益を達成しました。

第56期(2018年1月期)の業績予想

引き続き自動車関連業界が景気を牽引、
通期業績の見通しも増収・増益。

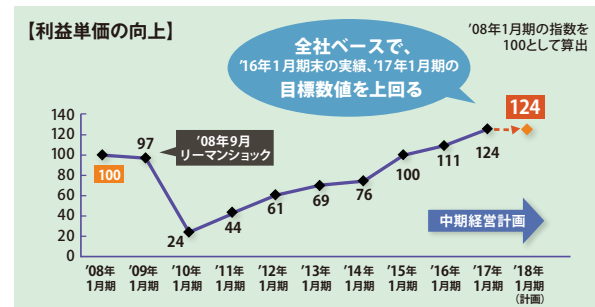
第56期(2018年1月期)の市場環境については、世界的に不安定な情勢はありますが、第55期(2017年1月期)の市場環境とほぼ類似した市場環境が継続されるだろうと予測しています。引き続き、自動車関連業界が景気を牽引し、インフラ整備であるIoTを含めた半導体の周辺メーカーがそれに追隨していくという傾向が継続するだろうと予測されます。これらを踏まえ、第56期(2018年1月期)の通期業績の見通しは、売上高は5,568百万円、営業利益は623百万円、経常利益は626百万円、当期純利益は431百万円の増収・増益、営業利益率は11.2%を見込んでおります。



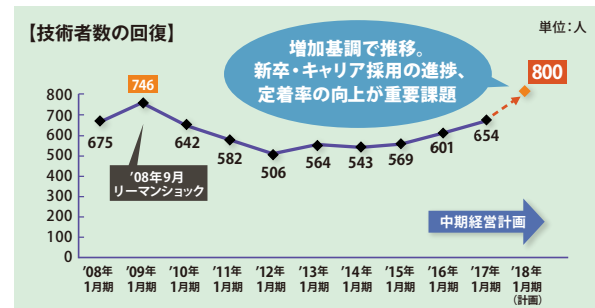
『中期経営計画の業績目標』と『第56期(2018年1月期)の業績予想』の差異について

『利益単価の向上』は過去最高を更新、
『技術者数の回復』は目標達成に向け努力を継続。

第56期(2018年1月期)は、3ヶ年中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の最終年に当たります。今回の中期経営計画は、『利益単価の向上』と『技術者数の回復』という2つの回復目標を掲げ、その達成がなされれば結果として売上高60億円、営業利益率10%の損益が確保できる中味となっております。『利益単価の向上』に関しては過去最高を更新、加えて上積み状況で進捗し、営業利益率の目標値(10%)を大きく上回る第56期の予算組み(11.2%)に寄与しました。



※利益単価＝当社内で独自に管理している技術者1人当たり、1時間当たりの単価に占める利益



一方、『技術者数の回復』については、過去最高の技術者数を回復させ、そこから上積みしていく800人規模の計画に対し、最終年度で目標に到達させる予算を組むことができませんでした。その結果、売上高の目標値(60億円)未達の第56期の予算組み(55.6億円)に大きく影響を及ぼしました。ただし、これはあくまでも、第56期スタート前の前提条件を反映した予算につき、さらに期中の退職者の抑制、キャリア採用の増加、加えて10月入社の新卒採用人数の積み上げを結集し、目標達成に1人でも近づけるための努力を継続してまいります。

『残業時間の上限規制』への対応と顧客企業からの影響

コンプライアンスを重視する当社は、
残業の法的規制導入でも業績に影響なしと想定。

国をあげての『働き方改革』への取り組み、中でも特に注目されている『残業時間の上限規制』に関して、「年間720時間(月平均60時間)」とする政府の草案に基づき、当社の残業時間を分析したところ、上限規制が導入された場合も、業績に影響を及ぼすには至らないと判断しております。また、この先、顧客企業は自社の残業時間短縮により遂行できなくなった業務を、派遣人員の増員で対応することと併用して、請負発注の増加で対応する可能性も高いのではないかと推測しております。

投資家の皆様へ

会社設立55周年、株式上場10周年の節目。
社員一丸となり、さらなる成長へ向けて邁進。

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

おかげさまで当社は、第56期(2018年1月期)9月に会社設立

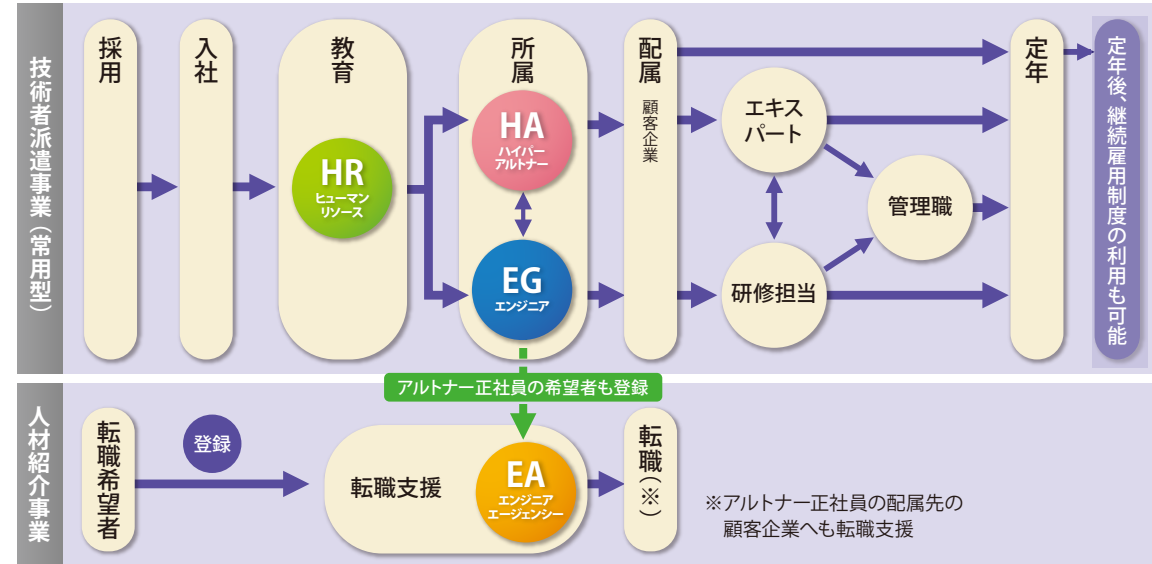


55周年を迎えます。1962年に設計開発の会社として設立、日進月歩の市場において常に時代に即した技術者を育成し、社会に送り続けて来た実績は老舗企業としての強みです。さらに10月には東証JASDAQ市場への上場も10周年を迎え、これからも従業員一同、努力と前進を続けることでさらなる利益を生み出していく所存でございます。また、このたび当社は、2017年2月1日より、投資家の皆様により投資しやすい環境を整えることを目的に、普通株式1株につき、2株の割合をもって株式分割を実施いたしました。株主・投資家の皆様に安定的な配当を実施することを当社では経営の最重要課題と位置づけており、第55期の配当は、中間配当20円、期末配当25円(前回予想から**5円増配**)、合計45円となりました。第56期の配当は、中間配当13円、期末配当13円、合計26円を予定しております。(株式分割前換算では、中間配当26円、期末配当26円、合計52円となり、**実質7円増配**)今後も、皆様の継続的なご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

ワンストップ体制 & ビジネスモデル

技術開発の強力なパートナーとして、多様なニーズにお応えいたします

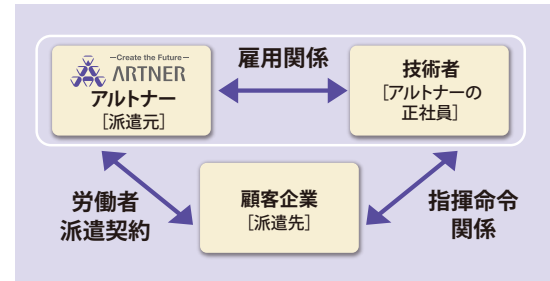
【4事業部門からなるワンストップ体制】



【ビジネスモデル】

技術者派遣事業（常用型）

技術者はアルトナー正社員のため、顧客企業と技術者は指揮命令関係にあるのみ。雇用コストや時間の大幅な低減が可能。

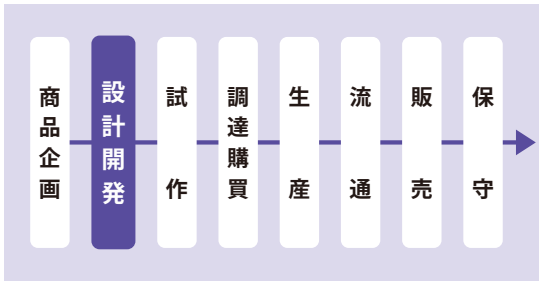


請負・受託事業

顧客企業の設計開発業務そのものを受注し、開発から技術周辺、納品まで幅広い要望に対応。

製造業のバリューチェーンにおける提供サービス

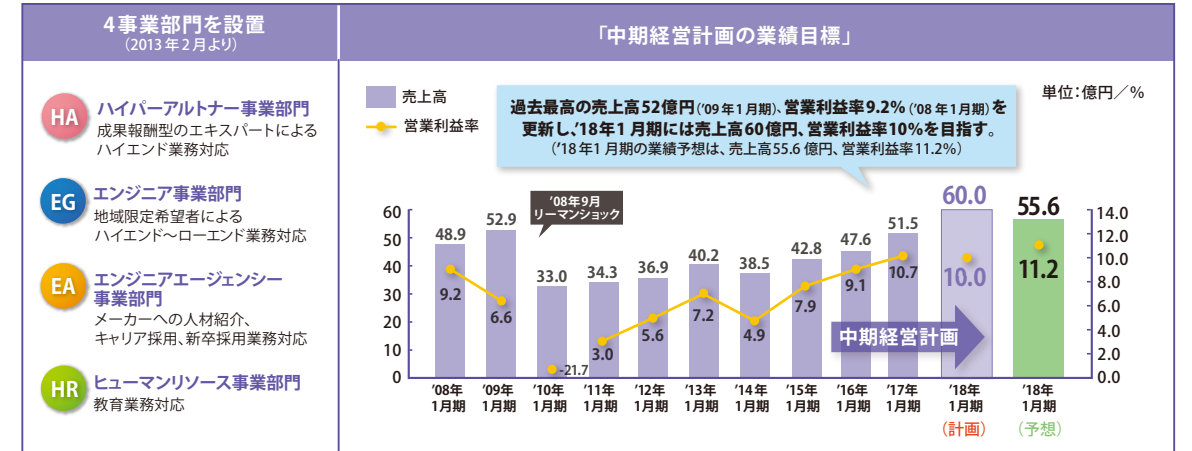
大手メーカーを顧客企業とし、設計開発に特化した専門的技術サービスを提供しています。



中期経営計画

(2016年1月期 ▶ 2018年1月期)

※詳細はアルトナーサイトTOP ▶ 投資家情報 ▶ 経営方針 ▶ 中期経営計画参照



※P3『「中期経営計画の業績目標」と「第56期（2018年1月期）の業績予想」の差異について」参照

もっとプログラミングを勉強したい
Yesが94.9%
仁川学院小学校での授業後アンケート結果より

アルトナー研修担当の講師による 小学生向けプログラミング教室を開催！

文部科学省は「プログラミング的思考」などを育むため、2020年度より小学校でのプログラミング教育の必修化を検討しています。当社では、吹田市教育委員会の後援を得て、江坂ラーニングセンター（研修施設）にて、近隣の小学校の生徒を対象にプログラミング教室を開催いたしました。また、仁川学院小学校（兵庫県西宮市）では、授業時間内に同教室を開催いたしました。

当社は「エンジニアサポートカンパニー」を経営理念として掲げており、「人をつくり 技術を育み 技術者を通じ社会に貢献」していくため、今後も、CSR活動の一環として、プログラミング教育に取り組んでまいります。

江坂ラーニングセンターで開催された講習風景→

←仁川学院小学校の授業内で行われた講習風景

授業内容
コンピュータ/プログラミング言語の簡単な概念を学び、また、プログラミング実習として、ビジュアルプログラミング言語「Scratch」※を用いて、不思議な図形等の作成を体験。

※「Scratch」はMITメディア・ラボのLifelong Kindergartenグループによって開発されました。詳しくは <http://scratch.mit.edu> をご参照ください。

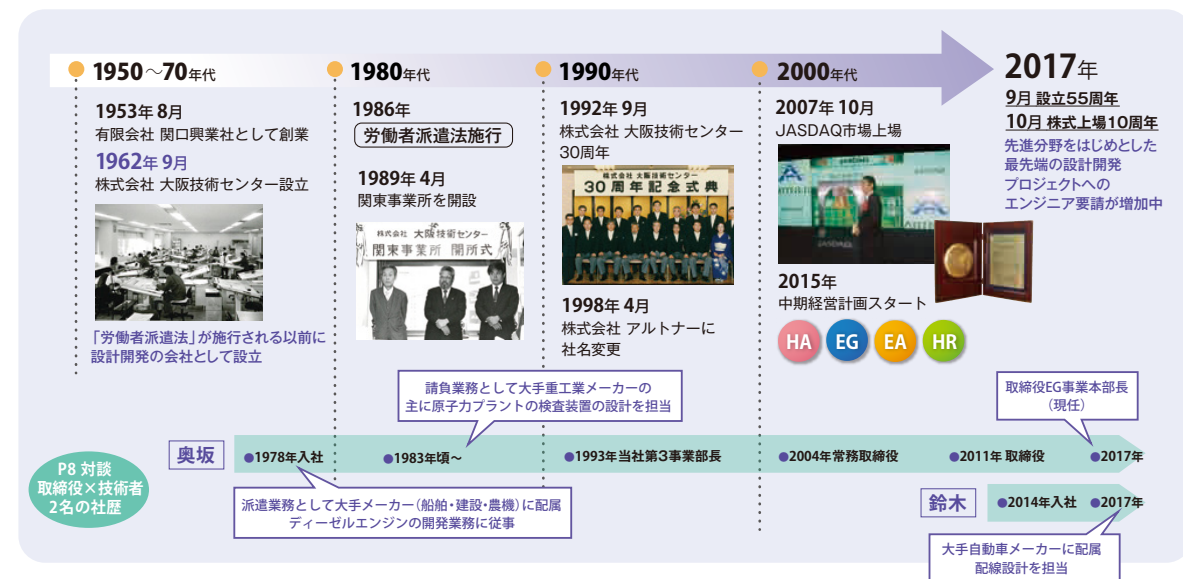
アルトナー55年の歩み／世代を超えた対談（取締役×技術者）

「エンジニアサポートカンパニー」として、
今後も時代のニーズに柔軟に対応してまいります。

当社は1962年に、設計開発の会社（旧：大阪技術センター）として設立されました。
変革激しい設計開発市場において、その時代に即した技術者を育成し、
輩出し続けてきた実績が老舗企業としての強みです。
これからも社員一同これまで以上の挑戦を行ってまいります。



本年、2つの周年を迎えます



設立当時を知る 取締役 対談 現役で活躍中の 技術者

当社の新卒採用がスタートした頃に入社した奥坂と、入社3年目の鈴木。
55周年を迎えるアルトナーについて
世代を超えて、語り合いました。



取締役
EG事業本部長
奥坂 一也
■1978年4月
大阪技術センター
(現当社) 入社



EG事業部門
鈴木 将太
■2014年4月入社
■学生時代の専攻科目
物理学
■所属分野
機械設計開発

鈴木「大阪技術センター（現当社）への入社理由を教えてください」
奥坂「好きな機械図面が書けること、給与面を企業選択の条件として入社を決めました。当時はキャリア採用が主で新卒採用はスタートしたばかり、技術者の数も100名程度でした。業務内容は、現在の派遣業界の先駆けとなる設計開発に特化した企業であり、プラント、設備、機器装置、自動機械などの開発業務に活躍する、高い専門性を持つ少数精鋭の技術者集団でした」
鈴木「現在、自動車メーカーで配線設計に携わっています。自分が設計検討したものが実車に組み立てられた時などやりがいを感じます。今後は、業務に対してどうモチベーションを保てれば良いでしょうか？」
奥坂「当社の良さは時代の変化に対応し、顧客企業に幅広いサービスを提供できる強靱な体制があるところです。それにより多種多様な分野に携わることができますよね。技術者として設計開発全般に携わってきたという強みがあるので、いろいろな分野の仕事に自信を

持って貪欲に挑戦すべきだと思います」
鈴木「技術者は自信がないと務まりませんよね。それと幅広い視野を持って情報収集し、ニーズに応えるためのスキルも付けていかないと」
奥坂「今の技術者は昔より覚えることが多くてかわいそうだけどね（笑）。鈴木君の入社時、当社は既に50周年を迎えてましたよね？」
鈴木「はい、長くて深い会社だと感じました。特に社員同士の繋がりがとても深く、それも強みであると思います。これはアルトナーの技術者に昔から受け継がれているDNA的なものなのではないでしょうか？」

奥坂「確かに当社は、技術者一人ひとりの人間力の向上のために先輩、後輩、同僚が互いに支え合い高め合う風土があります。先輩の技術力を後輩に受け継ぐ環境が整っているのかな。ただし、昔の先輩方の指導は優しさだけではなく、大変厳しい指導でしたが（笑）」
鈴木「私は先輩方の業務への取り組みを見て吸収できるものは全部吸収し、スキルアップに繋がりたいと思っています。自分も後輩にそう思われる技術者を目指します」



製図台で図面を引く技術者時代の奥坂。
当時は、請負業務として大手重工業メーカーからの設計開発を担当していた。

要約財務諸表

貸借対照表(要旨)			(単位：百万円)
科 目	第54期末 2016年1月31日現在	第55期末 2017年1月31日現在	
資産の部			
流動資産	1,895	2,061	
固定資産	207	228	
有形固定資産	81	79	
無形固定資産	22	25	
投資その他の資産	103	124	
資産合計	2,102	2,289	ポイント①→(A)
負債の部			
流動負債	623	477	
固定負債	121	196	
負債合計	744	673	ポイント①→(B)
純資産の部			
株主資本	1,355	1,613	
資本金	238	238	
資本剰余金	168	168	
利益剰余金	949	1,206	
自己株式	△0	△0	
評価・換算差額等	2	3	
その他有価証券評価差額金	2	3	
純資産合計	1,357	1,616	ポイント①→(C)
負債純資産合計	2,102	2,289	

POINT

ポイント① 貸借対照表

- ① 総資産は、売上債権、現預金の増加により、前事業年度末に比べ187百万円増加。
- ② 負債は、退職給付引当金の増加があったものの、未払金、預り金の減少により、前事業年度末に比べ71百万円減少。
- ③ 純資産は、利益剰余金の増加により、前事業年度末に比べ258百万円増加。

ポイント② 損益計算書

- ① 売上高は、稼働人員、技術者単価が前年同期を上回り、労働工数が前年同水準で推移したことにより、前年同期比8.2%増の5,153百万円。
- ② 利益面においては、売上高の増加に加え、稼働率が高水準で推移した影響もあり、営業利益は前年同期比28.1%増の553百万円、経常利益は前年同期比30.4%増の564百万円、当期純利益は前年同期比31.5%増の363百万円。

※百万円未満を切り捨てています。

損益計算書(要旨)				(単位：百万円)
科 目	第54期 2015年2月1日から 2016年1月31日まで	第55期 2016年2月1日から 2017年1月31日まで		
売上高	4,761	5,153	ポイント②→(A)	
売上原価	3,181	3,350		
売上総利益	1,580	1,802		
販売費及び一般管理費	1,148	1,249		
営業利益	431	553	ポイント②→(B)	
営業外収益	10	11		
営業外費用	9	0		
経常利益	432	564	ポイント②→(B)	
特別損失	5	-		
税引前当期純利益	427	564		
法人税、住民税及び事業税	176	213		
法人税等調整額	△25	△12		
当期純利益	276	363	ポイント②→(B)	

キャッシュ・フロー計算書(要旨)				(単位：百万円)
科 目	第54期 2015年2月1日から 2016年1月31日まで	第55期 2016年2月1日から 2017年1月31日まで		
営業活動によるキャッシュ・フロー	307	192	ポイント③→(B)	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3	△15	ポイント③→(C)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△79	△105	ポイント③→(D)	
現金及び現金同等物の増減額	225	70		
現金及び現金同等物の期首残高	1,076	1,301		
現金及び現金同等物の期末残高	1,301	1,372	ポイント③→(A)	

POINT

ポイント③ キャッシュ・フロー計算書

- ① 当事業年度末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ70百万円増加。
- ② 営業活動CFは、法人税等の支払、売上債権の増加があったものの、税引前当期純利益があったことにより、192百万円のプラス。
- ③ 投資活動CFは、無形固定資産の取得による支出により、15百万円のマイナス。
- ④ 財務活動CFは、配当金の支払により、105百万円のマイナス。

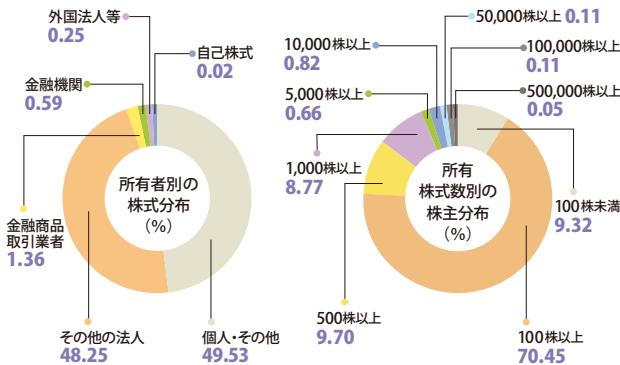
会社・株式情報 (2017年1月31日現在)

会社概要			
名 称	株式会社アルトナー	事業内容	1)機械設計 2)電気・電子設計 3)ソフトウェア開発 上記分野の設計製作及び設計技術周辺業務
設 立	1962年 9月	社 員 数	736名
代 表 者	代表取締役社長 関口 相三	許可番号	労働者派遣事業（常用型、登録型） （許可番号 派27－020513） 有料職業紹介事業（許可番号 27－ユ－020355）
株 式	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード） （証券コード：2163）		
資 本 金	2 億3,828万4,320円		
本 社	東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-5 住友不動産新横浜ビル 5F 大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル2F		

役員一覧

代表取締役社長	関口 相三
取 締 役	奥坂 一也
取 締 役	張替 朋則
取 締 役	江上 洋二
取 締 役	佐藤 宗
常 勤 監 査 役	三谷 高昭
監 査 役	金井 博基
監 査 役	福室 孝三郎

株式の分布状況



株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000 株
発行済株式の総数	2,656,980 株
株主数	1,824人

大株主の状況

氏名または名称	所有株式数(株)	割合 (%)
株式会社関口興業社	1,155,000	43.47
アルトナー従業員持株会	327,212	12.31
大阪中小企業投資育成株式会社	120,000	4.51
張替 朋則	72,560	2.73
奥坂 一也	68,720	2.58
横田 成昭	39,000	1.46
江上 洋二	25,388	0.95
貞本 洋	20,800	0.78
アルトナー役員持株会	20,500	0.77
上野 修	20,000	0.75
合計	1,869,180	70.34